2008年（平成20年）12月11日

朝日新聞

「妊娠中からの母子支援」

看護師・助産師参加して

岡山大大学院保健学研究科 来春から講座開講

看護師や助産師の資格がある人に現場復帰してもらい、人手不足が深刻化している産科医療や子育ての現場を助けようと、岡山大学大学院保健学研究科が来春から、助産師や看護師を対象とした講座「妊娠中からの母子支援」を開講する。担当する同科の中塚幹也教授は「周産期医療や母子支援に少しでも役に立ちたいと思う人に参加してもらいたい」と話している。

周産期医療、子育てに関して即戦力となる人材を増やし、現役は技術を向上することで、母子に対する総合的な支援体制の整備を進める。

講座は、育児などにより現場を離れた助産師や看護師が対象。最新の知識や技術を習得することで自信をもって復帰してもらうのが狙いだ。フルタイムでの現場復帰が困難な場合でも、児童虐待問題で活動する地域のボランティアを手助けするなど、それぞれが出来る形でかかわってもらえれば、総合的に子育て支援の体制を厚くすることができるとしている。

現役の助産師らには、スキルアップしてもらうことで産科医との連携や役割分担がスムーズになると期待している。

プログラムは09年4月から1年間実施する。講義は15回で、夏休みなどの長期休暇を利用した実習もある。超音波検査や分娩（ぶんべん）異常の管理法など、産科に関する最新の知識や技術を習得してもらうほか、家庭内暴力、児童虐待問題やボランティアによる地域の子育て支援などの社会問題も扱う。講義は都合がつかず出席できない場合、インターネットを利用して自宅で受講することも可能にする。

受講料無料。申し込みは15日から来年1月16日までに、専用の募集要項に記入して同研究科に申し込む。募集要項は助産ネットのホームページか、同科教務第2係（086・235・7045）で入手できる。募集定員は20人程度で、応募多数の場合は選考がある。

（上田真美）